

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600034		
法人名	社会福祉法人いわみ福祉会		
事業所名	グループホームモモ		
所在地	島根県江津市敬川町1230番地1		
自己評価作成日	令和5年12月29日	評価結果市町村受理日	令和6年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江上市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和6年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHモモは行動理念『利用者・家族との繋がり、地域との連携を大切に笑顔ある居場所を作ります』を掲げ日々利用者一人一人の思いにしっかり寄り添い、楽しく安心して心身共に活性化する生活を送って頂けるようお手伝いさせて頂いています。個々の思いに寄り添いながらゆくり関わりを持つことで一人一人の生活スタイルを把握し、その人らしい生活が維持できるよう配慮しています。毎月、行事を取り入れ利用者の意向を聞きながら計画し、楽しみを持つことで生活に張りを持てるよう支援しています。家族様、地域の方々の協力を頂き地域の活動に出来るだけ参加し開かれた施設作りにも取り組んでいます。職員は外部研修や内部研修に参加しスキルアップに努め、専門性を持ってケアできるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が変わって丸3年が経過し、今年度から1ユニットになり再スタートしている。一昨年夏に施設内で利用者や職員からコロナ感染者が出て入院もあったが、施設内でコロナ感染対応をとり乗り切っている。コロナ感染症が5類になり地域の活動が少しづつ増えつつあるが、周辺地域の感染状況が落ち着かないため、管理者からは慎重な声が聞かれた。小規模多機能を併設しているため、お互いの利点を生かし交流を中心とした取り組みも多くあったが、今は中止の状況。コロナ禍が続き、意欲が低下した利用者に対して、家族的な雰囲気の中での関わりを中心に、少しでもいい表情が見られるよう職員はチームワーク良く取り組んでいる。母体の法人には特老があり、グループホームからの移動もスムーズなため家族の安心に繋がっている。コロナ禍以前は地域との交流が盛んだったこともあり、認知症予防など地域への啓発にも取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議にて行動規範・事業計画の確認を行っている。	法人の理念に基づいてグループホームの行動理念が作成されている。年度当初に事業計画にある事業の目的、運営方針、本年度の目標等を確認することで、意識統一に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の発生状況に応じてではあるが可能な限り地域の行事(文化祭やお祭り)に参加している。同地区の保育園とも感染対策を講じながら交流を図っている。	コロナ禍で止まっていた地域行事が少しずつ戻りつつあり、文化祭ではグループホームで制作した壁画や手作り作品、ぬりえなどを展示した。秋祭りには神輿が回ってきたり、七夕では地元の保育園から短時間の訪問を受ける機会があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修会などに出向いて介護の研修を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い報告・意見交換を行っている。運営推進委員の方から頂いた意見を職員で共有しサービスの質の向上に努めている。	家族代表、コミセンの館長、婦人会長、他のグループホーム管理者、包括の参加で定期的に運営推進会議を開催。利用者の状況報告、行事、研修、事故報告等を行い意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員のメンバーになって頂き会議等で意見を頂き協力関係を構築している。またリハネット等の地域資源を活用し専門職からの助言等をケアの参考にしている。	包括からは運営推進会議に毎回参加があり、専門的立場から助言を得ている。生活保護担当課からも訪問を受け情報を共有している。包括を通じてリハネットを活用することができ、STの食事指導を受けるなどいい関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危機管理委員会を設置し身体拘束をしないよう定期的に会議や研修の開催、また不適切ケアに繋がらないよう定期的に目標を掲げ実践・評価を行い適切なケアが行えるよう取り組んでいる。	虐待、身体拘束を含めて危機管理委員会で3か月ごとに不適切ケア防止目標を作成している。毎月振り返りを行い、職員個々にアンケートを記入し提出。反省を元に次の目標作成に繋がっている。センサーマットの利用があるが時間を区切って使用したり、玄関の施錠せず拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	危機管理委員会を設置し虐待防止について定期的に会議や研修の開催、また不適切ケアに繋がらないよう定期的に目標を掲げ実践・評価を行い適切なケアが行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を法人全体で実施し全職員が受講している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には文章・口頭にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ここ数年はコロナ過で家族会は中止しているが年2回の広報誌にてご利用者様の様子をご家族様にお伝えしたり、面会やお電話などの際にご要望等を伺う様にしている。	グループホームの便りを年に2回作成。行事の写真を沢山撮り掲載している。地元の方には面会時に日頃の様子を伝えているが、県外の方には毎月書類を送る際、手紙で様子を伝えている。こまめに電話をするなど、意見を聞く機会を持つようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議などの場に於いて職員からの意見を聞き監督職などで話し合い改善点等を話し合っている。	職員全員、年に1回法人の管理職との個人面談の機会が設けられている。グループホームの管理者は日頃の雑談の中から様子を聞くようにしており、必要に応じて面談の機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の面接や自己申告制度を実施し職員が働きやすい職場・環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修に参加する機会を設け個々の知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会や部会等の参加により他施設職員と交流・情報交換を行いより良いケアに繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースに合わせてゆっくりと関わりながら信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が話しやすい雰囲気作りを心掛け、安心して頂けるようしっかりと思いを受け止め信頼関係を築くよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の要望や思いに耳を傾け、現在の状況に合った支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事、好きな事を見極め活動の参加や実施に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様との関係を大切に、何かあれば連絡を取り、相談・報告をを行うよう努めている。感染対策を講じながら対面での面会も可能となり、面会や電話などを通して関係性が途切れないよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を行いながら対面での面会実施が可能となった事で家族だけでなく親戚や友人の面会もあり、関係性が途切れないよう努めている。ご希望があればお墓参りに等も行く。	コロナ感染症が5類になり家族の面会は増えているが、動くことがおっくうになるなど意欲低下が感じられる方もある。外に出にくいため、地元の様子が流れる映像を見たり、理美容には近くの美容院から来てもらうなど、関わりが続くようにしている。	いろいろな方法で今までの関係が継続できるよう検討していただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で交流が持てるよう作業提供を行ったりレクリエーションなどでコミュニケーションが図れるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援等を求められた際には出来るだけ応じていきたいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分な個別の時間は確保できないが活動や雑談等の時間を通して本人の思いや意向を汲み取るよう努め支援計画に繋げている。	普段の会話の中で思いをできるだけ詳しく聞くようにしている。家族に会いたいとか家族の話が多いので、電話で伝えたりできるだけ計画に繋げるようにしている。小さな望みを叶えられるように考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様から話を聞かせて頂く機会を持ち把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で様子観察を行い状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ミーティングを行いケアの確認と振り返り、職員の意識統一等を行っている。各担当職員(利用者)が利用者や家族の意見も汲み取り現状に即した計画を作成している。	モニタリングを6か月に1回まとめている。コロナ禍の為本人、家族を含めての担当者会議はできていないが、面会時や電話等で要望を聞き、施設内で会議を行い計画変更に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートに細かく記録を残し情報共有を行っている。それらを元に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意向に添えるよう柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染状況によって外出制限等行っていたが、感染状況等を確認しながら柔軟に対応し外出促し等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に添って対応している。2週間に1回協力医の往診があり、その際に状態報告を行っている。	以前からのかかりつけ医を継続することもできるが、定期の往診が可能な施設の協力医への変更を全員が希望。夜間や緊急時にも対応が可能になっている。精神科の受診は職員が付き添い様子を伝えることで、適切な指示が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の些細な変化に気づく目を持ち、看護師に報告・連絡・相談するよう徹底し適切な対応がとれるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族様や病院関係者と密に情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と十分に話し合い、事業所として出来る限りの支援を行っていきたい。ご本人様の思いに寄り添い主治医との連携を図りながら支援していきたい。	グループホームでの生活が続けられるよう、できる限り対応するようにしているが、母体の法人に特老があることもあり、介護度3になれば特老の申し込みを薦めている。重度化に向けて話し合いの機会を持ちながら検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	毎年救急救命についての研修を行い実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し緊急時の対応がスムーズに行えるよう取り組んでいる。年1回机上訓練も行い、災害時の避難場所・避難経路の確認等を行っている。	併設する小規模と合同で年2回、昼間と夜間を想定して避難訓練を行っている。3月には訓練の予定があり、地元コミセンにも声掛けし参加協力をお願いすることとしている。施設近くの職員が多く夜間を含めて支援体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬意を忘れないよう言葉使い、声のトーン等に気を付け声掛けを行っている。接遇研修も毎年行い、介護職員として適切な接遇ポイントについて再確認している。	狭い空間のため、職員同士の情報交換には特に注意をはらうよう話している。身体拘束、虐待に併せて接遇を含め、危機管理委員会で目標を決め取り組んでいる。ケアの基本も繰り返し取り上げることで意識を新たにしていく。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定できるような声掛けや、ご本人様が思いや意向を表しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いを確認し活動参加を促したり、個別の状態やペースを把握し活動提供の提案を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分の好みで選択し選んでいただいている。選ぶ事が難しい方は選択肢が持てるような声掛けを行いその人らしさを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好きなメニューの聞き取りを行い食への楽しみや興味が持てるよう支援している。また料理の下ごしらえや簡単な調理など出来る事はやってもらっている。	利用者は女性が多く、調理の下準備など積極的に手伝う方が多い。当日の調理担当がメニューを決め3食作っており、調理の際の音や食べものの臭いを感じることを大切に考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を日々記録し摂取状況の把握をしている。水分量が少ない方には栄養補助食品を利用し、摂取量が少ない理由などを検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自分で出来る方は自分で、介助が必要な方は部分介助にて実施。夜間は義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方はご自身のペースでトイレに行かれる。介助が必要な方は個々のペースを把握し介助を行っている。	自立の方もおられるが、定期的な声掛けや誘導が必要な方もあり、個々に合わせた対応としている。紙パンツの使用者が多く、まとめて購入し尿量に合わせてパット等使い分けしている。排便状況が安定しない方がいるが、食事形態を変えて対応するなど、薬に頼らない方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の状態の合わせた対応を考え支援している。便秘の方は薬だけに頼らず、おからパウダー等を食材に取り入れる工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴促しは毎回本人の意向を確認し入浴サービスに繋げている。	少し大きめの家庭浴槽の為、重度で車いすの方は足浴しながらシャワー浴で対応している。週2回は入れるように計画して声掛けしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は本人のペースに合わせて対応している。夜間眠れない方等は水分補給や一緒に過ごす等の対応を取ったり、状況に応じて専門医への相談も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報も含めた利用者情報をファイリングし、職員がいつでも確認出来るようにしている。状態によっては薬の中止などもある為、常に看護師と情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が出来る事、出来ない事を把握し、出来る範囲内で役割を持って生活して頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症発生状況を確認しながら外出支援を行っている。行事等でドライブに出掛けたり、歩行運動を兼ねて屋外に散歩をする事もある。	コロナ禍以前のように外出できていないが、近くに花見に行ったり、地元神社に初詣に出かけている。日頃は、併設の小規模の玄関から出てグループホームをぐるっと回って帰るなど散歩をしたり、草抜きに裏庭に出たり、テラスでお茶するなど外気に触れる機会を持つようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の管理は管理者が行っているが、現金を持ちたい方もおられご家族様様に相談し預かり金以外で自身で現金を管理している方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からの要望があれば随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所に季節の飾りや壁画を飾り季節感を感じてもらいながら過ごして頂いている。また、ホール内のキッチンからは食事作りの音や匂いを感じられ常に五感が刺激されるよう配慮している。	道路に面しているが交通量は少なく、昼夜共に静かである。ホールからは外の景色がよく見え、季節の変化を感じられる。天井が高く開放的でゆったりした空間がある。施設間をつなぐ廊下で外を見ながら歩行訓練ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内は食事を摂る場所や気の合う友人とソファでくつろげる場所を設けている。また、一人でゆったり過ごしたい方にも配慮したレイアウトの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様には、自宅で使っていた馴染みのある物を持ち込んで頂くよう話をしている。	思い入れのある物の持ち込みを薦めているが、あまり多くは無く、テレビ、イス、テーブル、衣装ケース等が置かれ、家族写真等が飾られている。収納が少ない為、布団等は季節ごとに入れ替えをしている。日中の大半をホールで過ごす方が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に設置してある手すりの他、家具やフロアーマットなど一人一人が安全に生活出来るよう配慮している。		